

# 持続的発展に向けた経営者の思いの可視化と 経営理念の作成

支援機関 新居浜商工会議所 支援内容 経営理念作成支援

支援区分 その他(パッケージデザイン改変・経営理念の再構築)

## 菓舗 蛭子堂

### 事業者 概要

社名/菓舗 蛭子堂  
代表者名/代表者 高橋 英幸  
業種/製造小売業  
所在地/新居浜市大生院988-3  
設立/昭和6年  
従業員数/2名



蛭子堂 店内



蛭子堂 店舗

## 支援に至る経緯

菓舗 蛭子堂（以下、「当店」という）は、新居浜市大生院の国道11号線沿いで営業し、主力商品である「瀬戸の源氏巻」を中心に進物としての和菓子や季節の生菓子などを提供している。

新居浜市史によると、明治時代に庶民生活には欠かせない上等なお菓子のひとつに「源氏巻」があり、明治中期には源氏巻を製造する店舗が多数あったと記載されているが、今では、当店が明治時代から新居浜地方で広がった食文化を伝えていく唯一の店となっている。また、源氏巻として有名な「津和野の源氏巻」は生地を折りたたんでこし餡を使用しているが、当店の「瀬戸の源氏巻」は薄くスライスした羊羹を渦巻き状に巻いているのが特徴であり、当店の「瀬戸の源氏巻」は、新居浜商工会議所（以下、「会議所」という）や新居浜市、新居浜市観光協会などで組織する新居浜逸品カタログ推進協議会において「新居浜の逸品」に認定されている。

代表者の高橋英幸氏（以下、「高橋氏」という）は、大学在学時に事業承継をすることが決定したことから、大学卒業後に新たに日本菓子専門学校へ入学し、卒業後に同専門学校の助教師を経て横浜市内の和菓子有名店で修業後、平成4年に帰郷、当店に入社し平成26年から事業を継承している。

しかしながら、三代目として事業承継したものの、新商品を投入するとき、販売促進策を考えると、商品パッケージをリニューアルするとき、設備投資をするときなど、様々な経営上で意思決定する際の軸となる基本理念が当店にないことから、今後の経営の方向性を模索するため、会議所に相談があり支援が始まった。なお、当支援には愛媛県よろず支援拠点の協力も受け、ミラサポ等の専門家派遣制度を活用した。



## 支援内容

### (1) 経営理念を作成し可視化を行うための支援

- 1) 蛭子堂の沿革（伝統と歴史）が無いことから、振り返りを行うこととした。
- 2) 社長の思いを効果的に可視化するために、バランススコアカードを活用し4つの視点（「財務の視点」「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」）で洗い出しを行うこととした。

### (2) 商品パッケージ（箱）のリニューアルの提案

高橋氏は、主力商品である「瀬戸の源氏巻」のパッケージ（箱）を新居浜太鼓祭りの図柄で新たにリニューアルすることを検討していた。

しかしながら、「瀬戸の源氏巻」と「新居浜太鼓祭り」とのイメージがリンクしないことや、当社顧客の評価を考慮するなどして検討した結果、源平合戦に食されたというお菓子をイメージするためにも源氏絵巻の図柄でのリニューアルを提案した。



## 支援の効果

当店の沿革（歴史）を振り返ることで先々代・先代の経営者としての視点が見えてきた。さらに、相談者の思いを文字として可視化していくことで、蛭子堂のもつ有形資産や無形資産、未来への投資などを含めた「ビジョンと戦略」がだんだんと文字で表れてきたとともに、当店の伝承している見えない資産なども明らかになった。

また、商品パッケージ（箱）を源氏絵巻での図柄にリニューアルすることで、進物としての和菓子として顧客の反応も上々である。

## 今後の展開

当店の経営者の思いをさらに経営理念にまで高めていくとともに、明文化された経営者の思いを社内外の環境と照らし合わせながらブラッシュアップを行い、蛭子堂としての戦略策定を目指す。

## 事業者の声

企業理念はあった方がよいと頭では理解していましたが、日常業務に追われて過ぎていました。先代から直に蛭子堂の歴史を聞き取り、また、思いを俯瞰的に明文化していくなかで、どのように地域や顧客と関わり、どう取り組んでいくのかが少しずつ見えてきました。まだ、道半ばではありますが、発展しながら次の代へうまく繋いでいけるよう頑張りたいと思います。



代表者 高橋 英幸

## 支援者の声

新居浜逸品カタログ事業の第2回認定の時から当店の支援に携わらせていただいています。明治時代から新居浜地域に広がった食文化（源氏巻）を末永く後世に伝えていくためにも、心に響く、役立つ経営理念が必要であると思います。今後も、引き続き、地域やお客様から愛される、より良い店舗になることを期待しています。

（新居浜商工会議所 産業振興部副部長・主席経営指導員 仙波 学）